

甲府城西高校における BYOD 活用事例と展望

教諭 萩原佳蓮

1. 活用状況

本校は、8 系列に分かれた総合学科高校です。1 年次までは共通の内容を学び、2 年次以降は系列ごとに専門的な学習を進めます。系列は大きく「商業系(2)」「工業系(2)」「その他(福祉、人文等 4)」に分類されており、BYOD (Bring Your Own Device) の活用方法も、この 3 つの系統に応じて異なります。

商業系では、電子的なサービスを利用・作成する立場から BYOD を捉えています。一方、工業系では、電子機器そのもののメンテナンスや製作を行う立場として活用しています。これに対しその他の生徒は、調べ学習や発表のツールとして、文房具と同様に BYOD を活用しています。

現行の学習指導要領では、すべての子どもたちの可能性を引き出す観点から、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実が求められています。本校もこの方針に沿って取り組んでいます。

次期学習指導要領では、以下の視点が示されています。

- A) 多様な子どもたちにとっての包摂性を高めつつ、教師にとって持続可能な形で、主体的・対話的で深い学びを通じた資質・能力の育成に資する学習環境のデザイン
- B) BYOD が教師の指導ツールとしての側面に加え、学習者の学習ツールとしての側面を持ち、学びやすさの向上や合理的配慮の基盤として機能し、多様な特性を持つ子どもたちが主体的に学ぶための基礎
- C) デジタルキャリアルかという二項対立に陥らず、デジタルを最大限活用し、一人ひとりの豊かな学びを充実させる視点

これらの方針に準じた、本校での BYOD の活用事例を以下に紹介します。

2. 本校での活用事例

A) 多様性と持続可能な学び

専門科目では、授業の振り返りを共同編集機能付きの Excel ファイルで共有しています。また、調べた内容を PowerPoint のスライド 1 枚にまとめ、互いにコメントを付け合う活動も行っています。

この方法は、調べ学習は好きだが発表は苦手、話すより書く方が得意という生徒にマッチし、従来の一斉指名発表型よりも授業が活発になりました。

さらに、教師側も紙の回収や手書きコメントの手間がなく、オンラインで簡単にフィードバックできるため、業務負担が軽減されます。こうした工夫が、どんな状況下でも持続可能な授業運営につながっています。

B) BYOD で学びやすさと主体性を支援

課題研究の授業では、オープンスクールに向けて系列紹介動画を作成しました。動画制作には Canva を活用し、豊富なテンプレートから好きなものを選んでデザインできるようにしました。

ICT に不安のある教師でも、テンプレートやチュートリアルが充実しているため、安心して指導できます。生徒にとっても、美的感覚を活かせる活動は自己肯定感を高める機会となり、特別支援の特性を持つ生徒も得意分野で活躍できました。

C) デジタル活用で学びを豊かに

従来リアルで行っていた活動を、デジタルと融合させる実践も進めています。英語科では、Google や AI を活用した自主学習アプリの開発を目指しています。

家庭科では、Glide を使って意見交換アプリを作成し、Padlet で起こりがちな「意見の削除」や「不適切な書き込み」を防ぐ設定を導入しました。これにより、安心して学びを深める環境が整っています。

3. 本年度の課題・展望

- I. BYOD の活用について位置づけや目的が体系的に示されていないため、学校間や教科間で活用の方向性にばらつきがあります。
→**展望**仕組みづくりをするとともに全教科に広げ、「持続可能な学びの環境設計」として位置づけを進める
- II. 調べ学習等の実践は進んでいるものの、情報の信頼性評価やデータ活用、AI との協働など、より高度な情報活用能力の育成は十分ではありません。
→**展望**教科横断的なプロジェクト型学習を通じて、データ分析や AI 活用を含むスキルの体形的育成を目指す

4. 参考文献

文部科学省(2025). 中央教育審議会教育課程企画特別部会
論点整理(2025/9/25 公開、11/21 閲覧)

https://www.mext.go.jp/content/20250925-mxt_kyoiku02-000045057_01.pdf